

「Do you know 能？」

～ガイドなら一度は観ておきたい能楽～

2015年7月11日実施 JGA 第一支部研修 終了レポート

独立行政法人日本芸術文化振興会 国立能楽堂様のご厚意で能楽研修がようやく実現し、定員 20 名の会員が参加しました。

ユネスコ世界無形文化遺産にも登録されている能楽は、通訳案内士にとって不可欠の知識ですが、実際に舞台を鑑賞した経験がある会員は案外少なく、当日の参加者でも大半が初めて。「Do you know 能？」「No, I don't.」という反応でした。

第一部では、国立能楽堂営業課長 吉成大四郎氏を講師に迎え、能楽の基本知識のレクチャーを受けました。室町時代にはほぼ現在の形が確立された長い歴史を持つ能楽ゆえ、お聞き出来たのは本当にその一端のみ。とはいえ、現在まで引き続いて上演されている最古の演劇であることから始まり、現在の能楽という呼称の由来から歴史、演目分類と内容、舞台構成まで、多岐に及ぶ充実した内容でした。



第二部では、東京大学教授の松岡心平氏の解説・能楽あんない「動いている江戸期の能楽」に続き、いよいよ能楽鑑賞。演目は、狂言「簸屑（ひくず）」（三宅右近（和泉流）出演）、能「大瓶猩々（たいへいしょうじょう）」（井上裕久（観世流）出演）。国立能楽堂では、前座席背面にモニターが備えられており、英語と日本語で解説や台詞が表示されます。「大瓶猩々」では、何と5体もの猩々が出てきて舞い、華やかな舞台に全員見入りました。

